

ジャスミンを育て、花の香りを楽しむ

中村祥二 (会長)

はじめに

ジャスミンのkokのある甘さの華やかで広がりのある香りを、多くの人に手軽に楽しんでもらえないかと思案してきた。

身近のジャスミン

ジャスミンには約 300 種の実種がある。ジャスミンはモクセイ科のヤスミヌム属の植物で、私たちの身の回りには早春に咲くオウバイ、夏に香りの良い黄色の花を付けるキソケイ、ジャスミン茶の香り付けにも使われるさわやかな甘さのマツリカがある。マツリカは園芸用に家庭によく置かれていた。私の庭の片隅にもあった。紅茶や中国茶の店に行くと必ず置いてある。それほど高価な紅茶ではない。5月の半ばにたくさんの花を付け特徴のある強い香りを放つハゴロモジャスミンは花期も短く、顔を近づけて嗅ぐとフェノールのような匂いが強く快い香りとは言えない。しかし、隣家の満開の花から5メートルほど風下に立って流れてくる香りを嗅ぐと芳香に変わっているのがなんとも面白い。園芸植物大辞典には強い芳香があると書かれているが、少し離れたところから嗅いだ時の印象であろう。香水には使わない。なお、蔓(つる)性の白いマダガスカルジャスミンはガガイモ科の植物で名前が名前だけにモクセイ科のジャスミンにいつも間違えられてしまう。香りが良く花の形が似ていることにも由来しているのだろう。

香水に使用されるジャスミン

ジャスミンの中で最も香りがよいのが、インド原産の *Jasminum grandiflorum* である。南仏のグラス地方では「ローズが花の香りの女王であれば、王はジャスミンである」といわれてきた。17世紀から、グラスで香料用に広く栽培されたものは、この地の気候にあうように、自生の *J. officinale* に接ぎ木したものである。グラスの *J. grandiflorum* の香料の生産はごく少量で、もう大分以前から土地や人件費の高いフランスやイタリアからエジプトに移り、更にモロッコや原産地のインドに広がっている。ローズと同様、ジャスミンの豊かで華やかな香りは高級香水には欠かすことのできないものであった。140種類以上の *Jasmin* の名前を持つ多くの香水を生んできた。その1つとして *Jasmin* (GUERLAIN 1930年) がある。

グラスのジャスミン生産量は花びらの重量で1930年の1800トンピークとして1995年には26トン (absolute換算で約50キログラム) と次第に減少した。これは上記の生産地の移行と合成香料の発達の影響があるだろう。現在は一時期よりも生産量が増えている。

1970年末頃から *J. sambac* (マツリカ) が次第に香水のテーマとして関心が持たれるようになった。香調の中に *J. grandiflorum* にはない新奇な特徴があることにパフューマーが興味を持ったのかもしれない。最近の香水に *Ange ou Démon*, *Le Secret* (GIVENCHY) 2009 がある。香水の名前を日本語に訳すと「天使の輝きと悪魔の誘惑の影。真の姿は永遠の秘密」となる。フランス語は難しい。



Jasminum grandiflorum L.

私宅の *J. grandiflorum*

下田の薬用植物栽培試験所所長の宮崎幸男さんはジャスミンの分類の研究者としても知られていた。下田のお宅に伺った折に頂いた *J. grandiflorum* は私の横浜の家の日当たりのよい庭の一角がとでも気に入ったらしく、暑い季節の水やりを忘れなければ、少しの肥料で夏から秋にかけて、ピンクの蕾から純白の花を次々に咲かせる。日が暮れると 500 円硬貨ほどの白い花が薄明かりを受けてポツと浮かび上がるように咲き、部屋の中へも芳香が漂ってくる。晩秋にはさすがに軽やかな華やかさは失われてくるが、花は 12 月の中頃まで続く。興味のある知人にも分けるようになってきた。

このジャスミンを自分の庭に植えている人は少なかった。川崎市の国際香りと文化の会の会員で見事に育てた方がいる。2 階までとどいた後、更に上に登って広がり屋根のかなりの部分を、覆うようになって花を咲かせた。あまりの成長ぶりに根元近くの茎と言っていいのか幹と言う方がいいのか、根元の周りを測ってもらった。4 本のうち最も長かったのは 18 cm あると知らせがあり驚いた。直径にすると 5.7 cm である。メールには写真

が添付されていた。その他、鎌倉と熊本の方にも、差し上げ、順調に育っている知らせを聞くと嬉しい。温暖化のせいかわまれた条件では 1 年中咲いているという知らせが届いたこともある。

すばらしい香りで、病虫害がなく、しかも花期の長いこのジャスミンを花の香りの愛好家にもっと広げられないかと、ある園芸雑誌に載せたところ、愛知県渥美郡の園芸家鈴木均さんが

私の呼びかけにすぐ応じてくれた。研究所で手渡した私のジャスミンの元気よい二本の枝はプロの技で増やされ、たくさんの苗に育っている。ジャスミンの苗の写真も送っていただいた。私の手帳には鈴木さんの連絡先があり、講演などの折りに関心のある方々には直ぐにお知らせ出来るようにしている。

華やかな彩りの花が流行っている園芸ブームの中で、見た目には地味だが、王様の香りが少しずつ広がっているのが嬉しい。

参考文献

- 1) JASMINE Flower of Grasse
Marie-Christine Grasse
- 2) 調香師が語る香料植物の図鑑
フレディ・ゴズラン、グザビエ・フェルナンデス
原書房、2013
- 3) 最新農業技術、花卉 vol.1 p341 中村祥二
農山漁村文化協会、2009